

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表： 令和5年2月24日

事業所名 放課後等デイサービス ジョバンニの森

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10	3	日によって利用児童数が変化するが、多い日は部屋を分けるなど対処している。全利用児童が机で学習できるスペースが設けられている。室内は広くはないが、別室(1F)を使用したり、近隣のチャイルドハウス <small>（公室等も利用している）</small>	居室、活動室、機能訓練室のみならず近隣の公共施設等も最大限有効に活用する。
	2	職員の配置数は適切である	13	0	常に利用児童の近くに配置されている。常に人員基準以上の職員が配置されている。	今後も人員基準にとらわれることなく、職員の増員拡大を継続する。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	10	3	階段に手すりが設置された。二階にあるので階段移動が必要であるが、室内はバリアフリーとなっている。2Fにあるため、階段での移動が必要。室内はバリアフリーになっている。	現時点では党事業所利用児童内に身体障害児はいないが、今後の受け入れのために、一層のバリアフリー化を推進する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	13	0	令和5年1月よりSDGs 認証企業認証を受けている。	今後も一層のPDCAサイクルを推進する。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	13	0	保護者会などで、情報交換や意見・要望などを伺い対応している。	アンケートのみならず定期的な保護者会を開催し双方向による話し合いと其中で得られるニーズを適切に把握し、今後の支援に生かすように努める。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	13	0	事業所内およびHPで公開されている。	今後も継続する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	10	3	顧問弁護士、行政書士、税理士などによる第三者委員会を開催している。	第三者委員会での議題及びその内容を一層わかりやすく広報する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	13	0	管理者より常に研修情報及びスキルアップのための講座などの情報が全職員に届けられている。 外部研修に積極的に職員が参加している。	外部講師を含めた定期研修会の開催また学会・研修会への参加を推奨する。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	12	1	児童・保護者との話し合いを緊密に出来ない、課題設定アセスメントを行い、半年ごとに見直しを行っている。	こまめに支援会議を行い、様々な視点での観察及びアセスメントを行いサービス計画に反映する。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	13	0	職員研修会でのアセスメント講座の開催や専門職種によるアセスメント指導を行っている。	今後も継続する。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	13	0	児発管を中心にスタッフ全体で定期的に話し合いを行い、個別支援アセスメント及び支援計画立案を行っている。	多職種による活動プログラム立案を行い、柔軟かつ多様な活動プログラムを提供する。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	13	0	児発管を中心にスタッフ全体で定期的に話し合いを行い、個別支援アセスメント及び支援計画立案を行っている。 季節や天候などを考慮してよく考えていると思う。	多職種による活動プログラム立案を行い、柔軟かつ多様な活動プログラムを提供する。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	13	0	児発管を中心にスタッフ全体で定期的に話し合いを行い、個別支援アセスメント及び支援計画立案を行っている。	多職種による活動プログラム立案を行い、柔軟かつ多様な活動プログラムを提供する。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	13	0	天候などその日の状況に合わせて、活動を変更する場合もあるが、個別、集団どちらも子どもたちが積極的に参加できる活動計画を立てている。	今後も柔軟な視点で活動を立案・実践していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	13	0	毎日支援者ミーティングを行い、来所者の情報、送迎内容、プログラム確認を行っている。	今後も継続する。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	13	0	支援終了後、また翌日に毎回支援の振り返りを全職員で行い、注意点及び申し送りなどをこまめに確認し共有している。	今後も継続する。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	13	0	来所時にはご利用記録に内容を記載し保護者の方へお渡ししている	今後も継続する。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	13	0	支援会議を行い、モニタリングをして計画の見直しを行っている。相支事の方とも連携している	スタッフミーティング及び全職員による全体会議を行い利用者状況及びアセスメント内容の共有を行い支援計画に反映するように今後も務める。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	13	0	総則基本活動を偏ることなく複合して実践している。	今後も継続する。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	13	0	日々支援している職員並びに管理者、児童発達管理責任者、看護職員が参加している。	今後も継続する。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	13	0	学校における担当者会議の開催や個別事案に対する学校との連携会議開催などを積極的に行っている。また学校への送迎時に担任教員などより学校での様子やその時点の課題を共有及び連携確認を行っている。	WEBやSNSを一層活用し、より緊密な連携を図る。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	13	0	主治医と連携を行い、医療的ケア児への対応指示を頂き、連絡が即時にとれる体制を作っている。	定期的な主治医との面談や施設への訪問以来を継続していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	10	3	現時点で入学児童の受け入れがない。	今後、新入学児童を受け入れる際には、保育園、幼稚園をはじめとした関係機関との連携会議を開催し、情報の共有をばかり相互理解に努める。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	13	0	卒業などの事由により利用児童が他事業所に移行する際には、可能な限り連携を図り情報交換及び共有を図っている。	今後も継続する。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	11	0	研修会などには積極的に職員が参加している。	今後も継続する。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	11	2	近隣のチャイルドハウスを利用したり、イベントに近隣の子どもたちを招待し一緒に活動して交流している。	今後も継続する。
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	6	7	現時点で参加できていない。	今後は可能な限り参加する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	11	0	ご利用記録などを通して保護者様に利用時の様子などを詳しく伝えている。電話やLINEでのやりとりや、日々のご利用状態などで、保護者の方と児童の様子や課題について連絡をとっている。	今後も継続する。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	12	1	保護者会での外部専門職の助言および研修及び講演会を定期開催している。保護者との個別相談対応を心理士が行いペアレントトレーニングを行っている。	今後も一層参加しやすい情報発信及び機会を作ることを継続する。
保護者への説明責任	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	13	0	契約時に必ず毎回詳細な説明を行い、了承を得ている。	今後も継続する。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	13	0	悩みの相談により、適切な職員が対応している（保育士、看護師、心理士、社会福祉士等）	今後も積極的に継続する。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	13	0	3、4か月に一度、保護者会を開催し、講座や活動の報告、保護者間での交流の時間を作っている	今後も継続する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	13	0	苦情相談窓口を事業所内に設置している。また外部相談窓口も紹介している。	今後も継続する。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	13	0	月に一度、活動の写真や行事予定を記載したものを配布し、週に一度Facebookにも活動の様子を更新している	今後も継続する。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
等	35 個人情報に十分注意している	13	0	鍵の場所に保管し、個人情報の取り扱いには十分注意している。 また職人入職時に在職時また退職後も従事中に知れた情報についての秘密保持の制約を文書で行っている	今後も注意深く継続する。
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	13	0	来所前日に送迎時間の確認や持ち物の確認等も行い、保護者の方と頻りに情報伝達している	ICTなどを活用しより分かりやすく活用しやすい手段・方法を拡充させていく。
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	13	0	夏祭りやおもちつきなど、季節ごとのイベントでお手紙を作って配り、招待している	今後も継続する。
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	13	0	コロナウイルスの流行に伴い、感染症対策については看護職員が主になり、他職員に対して発熱等、対応する際の社内研修を行っている	コロナ対策のみならず様々な観点から継続する。
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	13	0	毎月避難訓練を行っている。 定期的に避難訓練などを子どもたちと一緒にやっている。 月に1回、様々な状況を設定し、避難訓練を行っている	今後も継続する。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	13	0	社内研修にて職員が学ぶ機会をつくっている	今後も継続する。
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	11	2	現時点まで身体拘束を行うことがない。	事業所作成のガイドラインを遵守する。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	13	0	1人1人のアレルギーがある子に対して職員間で情報共有しているため、注意を心掛けている。 アレルギーのある児童に対しては、除去食その日に会ったヒヤリハット情報などはグループツールなどで共有している。	定期的に提携医療機関からの指導を今後も継続的に得て運営する。
43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	13	0	危険な場面だと感じた際に事例集を作成し、職員間で共有している	今後も継続する。	